

キリトリ線
郵便はがき

料金受取人払

2 7 1 - 8 7 9 0

松戸局承認

317

差出有効期間
平成15年8月31日まで

千葉県松戸市上本郷88

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
経営企画部 行



フリガナ

お名前

満 歳 男・女

ご住所 〒

都 道 府 県

市 区 郡

TEL

()

ご職業

Eメール

株 式 投資歴
a. 3年未満 b. 3年以上10年未満
c. 10年以上20年未満 d. 20年以上

キリトリ線

株主メモ

決算期 6月30日
定時株主総会 営業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日 定時株主総会 6月30日
そのほか必要があるときは、
あらかじめ公告して定めた日
権利確定日 利益配当金 6月30日
中間配当金 12月31日
名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 東京(042)351-2211
大阪(06)6833-4700
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞 日本経済新聞

お問い合わせは、下記までご連絡ください。
プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
〒271-0064 千葉県松戸市上本郷88
TEL : 047-303-4800 FAX : 047-303-4810
お問い合わせメール ir@pss.co.jp
URL <http://www.pss.co.jp>



PSS
Precision
System
Science
Co., Ltd.

第16期 事業報告書

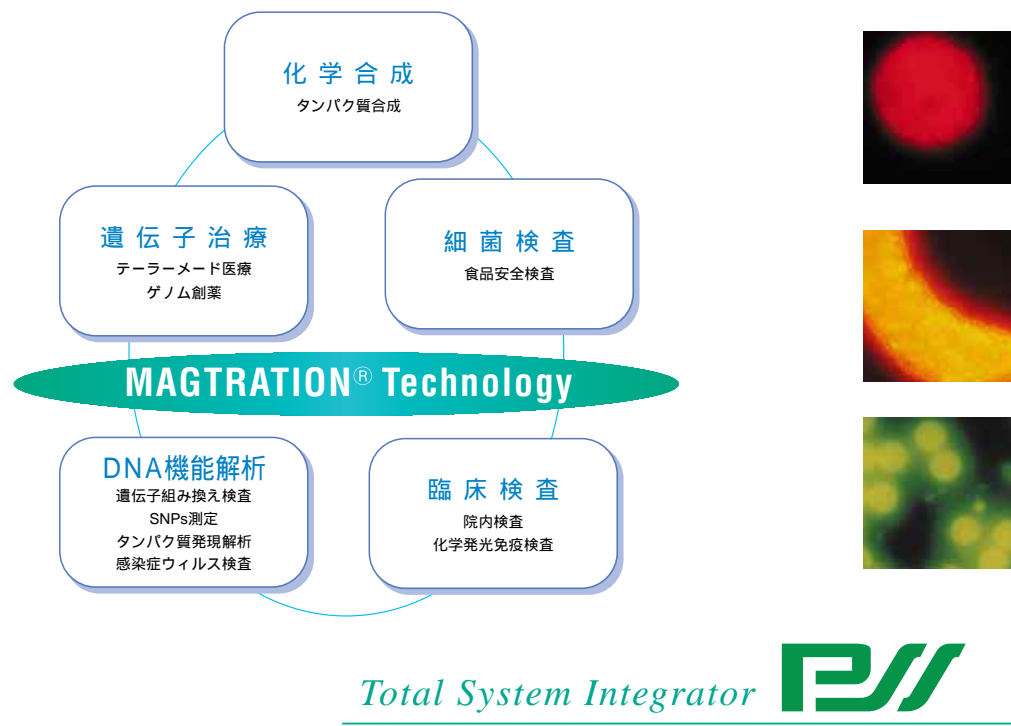
平成12年7月1日～平成13年6月30日



人類の健康と幸福に貢献するバイオ産業の トータル・システム・インテグレータ —— PSS

私たち、プレジジョン・システム・サイエンス株式会社（PSS）は、遺伝子関連業界における新技術の開発をはじめ、その技術の実用化に用いられるDNA自動抽出装置、その他理化学機器、解析ソフトウェアなどのシステム開発および製造販売を手掛ける研究開発型のバイオベンチャー企業です。

21世紀のキーテクノロジーとして期待されるバイオテクノロジーは、生命科学および保健医療科学の進歩促進をはじめ、高齢化社会問題、環境・食糧問題、エネルギー問題など、様々な問題の解決に重要な役割を果たすものです。PSSは、バイオ産業のトータル・システム・インテグレータとして、人類の健康と幸福に貢献しています。



2001年2月28日、 ナスダック・ジャパン市場に 株式上場いたしました。

代表取締役社長 田島秀二



1985年の設立以来、当社が取り組んでまいりましたシステム開発は、臨床検査分野を中心としたものであり、免疫測定、検体情報入出力、高精度検体分注、検体処理ライン、化学発光計測など多岐にわたっております。それぞれの困難な課題を克服してきた努力と着想が、現在の遺伝子解析分野への応用につながってまいりましたものと考えております。当社が考えます「システム」には日本語の適訳がありませんが、1つの解析結果を出すためには、ハード機器、試薬、反応工程制御、測定原理、解析ソフトなどの要素を、完全に満足させるものでなくてはなりません。当社は、その一貫した技術体系の確立、すなわち、システム化に、事業の目標を置いております。その結果、現在当社の主力製品であるDNA自動抽出装置の製品化に成功し、世界有数の製薬企業・ロシュ社（スイス）にも認められました。また、同社とのOEM契約を契機として、米国、ヨーロッパなど世界市場をターゲットとした事業展開が始まっております。さらに、2001年2月28日には、取引先や株主の皆様からのご支援のもと、ナスダック・ジャパン市場に株式上場を果たしました。

本来、バイオ関連市場でベンチャー企業が成長発展することは、資金調達、研究設備、人材確保などの面で非常に難しいといわれています。しかし当社には、設立以来培われた技術力と免疫系臨床検査システムの製造における経験・ノウハウの蓄積があり、成長を支える大きな事業基盤となっております。わが国の産業構造は大きな変革期を迎え、新しい時代への躍動と挑戦が始まっております。20世紀後半に開始されたヒトゲノム（人間の全遺伝情報）・遺伝子研究などのバイオテクノロジー分野においても、急速に技術開発が進んでおり、2010年時点での市場規模は25兆円ともいわれております。当社では、今後も急成長が期待されるバイオ産業の臨床検査分野を担う「トータル・システム・インテグレータ」として、人類の健康と幸福に役立つ新技術の開発に努め、世界市場を視野に、更なる成長発展を目指しております。株主の皆様方におかれましても、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

世界が認める「MAGTRATION® Technology」(マグトレーション・テクノロジー)

PSSの基幹技術——国際特許技術 MAGTRATION® Technology

「MAGTRATION® Technology」は、当社が、従来にない斬新な発想と独自の研究により生み出した、化学反応工程制御の自動化に用いる技術です。現在世界中で盛んに行われている遺伝子研究では、いかなる場合でも、まず最初のステップとして、研究の対象であるDNA等を、細胞から「抽出 増幅 検出」という作業が必要となります。特に、従来手作業に頼っていた「抽出」作業の自動化を実現したのが、「MAGTRATION® Technology」です。また、「MAGTRATION® Technology」は、その応用性の広さから、「抽出 増幅 検出」工程の全自動化をはじめ、様々な分野での活用が期待できる技術です。今後も全世界のバイオ関連の研究者やその関連企業から注目される技術といえるでしょう。

抽出 増幅 検出の全自動化



OEM契約先

Roche Diagnostics GmbH (ドイツ)
Genovision AS (ノルウェー)
F. Hoffmann-La Roche Ltd. (スイス)
Magnetic Biosolutions Sweden AB (スウェーデン)
東洋紡績(株)

MAGTRATION® Technologyの特徴・優位性

DNA抽出の一例



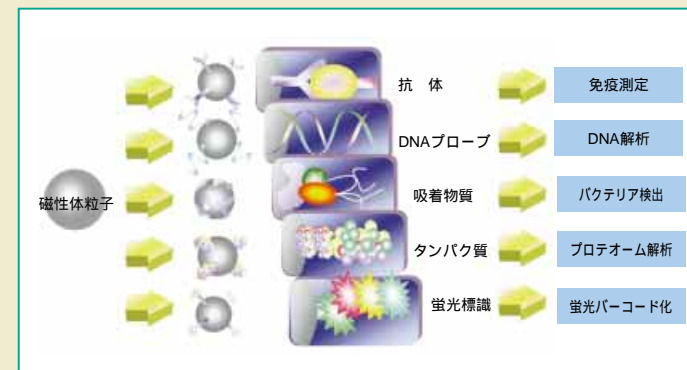
当社が独自開発した「MAGTRATION® Technology」の特徴は、これまで磁性体粒子を用いた核酸抽出の自動化を困難にしていた諸要素、すなわち、粒子コントロールのキーポイントであり問題点であった捕獲効率、次工程での再懸濁効率、コンタミネーションの防止等を合理的に解決した点にあります。「MAGTRATION® Technology」を取り入れた「DNA自動抽出装置」は、下図のような優位性を持ち、遺伝子研究において飛躍的な効率化をもたらしています。

- 高精度
- 微量化対応
- 汎用性
- シンプルかつ安価
- スピード

MAGTRATION® Technologyの広がる応用分野

PSSの事業領域

磁性体粒子の応用分野



「MAGTRATION® Technology」は磁性体粒子のコーティング素材を変えることにより、左図のように多様な目的に応用できます。また、他の技術・システムとの融合が容易であることから、遺伝子研究の現場で求められている有用な自動化システムを生み出すことも可能です。

好適素材 磁性体粒子の特徴

磁性体粒子は直径0.3~5μmの微粒子ですが、溶液中で無数の粒子を反応させることにより、表面積が大きくなるため、目的物質と短時間で反応します。結果、作業工程時間を大幅に短縮します。

磁石による分離・再懸濁が容易であることから、自動化に適しています。

コーティング素材により、多様な対象を扱えるので、応用分野が広がります。

基本的な仕組みと原理

MAGTRATION® とは、「Magnetic Filtration」を縮めた造語で、磁石により振り分けることを意味します。基本的には、磁性体粒子(磁性を帯びた粒子)と磁石、そして高精度の分注機という3つの要素で構成される、非常にシンプルな仕組みです。基本原理は、磁性体粒子で目的物質を捕獲し、これを磁石と分注機で制御することにより化学反応工程制御を行うというものです。



MAGTRATION® Technology の応用製品への取り組み

- 化学発光自動免疫測定装置
- DNA自動抽出装置
- 全自動DNA検出装置
- ハイスルーブット
- DNA解析装置

ハイスルーブット多目的
自動化システム SX-96GC
DNA・プロテオーム解析
関連アプリケーションを自動化



PSSの新技术・新製品開発

バイオ産業のトータル・システム・インテグレータを目指すPSSは多様な新技术を開発しています。

DNAの抽出から検出までの全自動化を実現する 新型DNAチップ「Bio Strand Tip」を独自開発

Bio Strand System (バイオストランドシステム)

画期的な新型DNAチップの開発

人間の遺伝子配列の解読では、配列の中にどのような情報が隠されているのかを調べることが重要であり、これを調べるもののひとつにDNAチップと呼ばれるものがあります。現在、DNAチップは、スライドガラスなどの平面基盤上に、予め様々な種類のDNA断片を数千種類並べて固定するスポットティング法が主流となっています。

ただし、この方法は、技術的にも多くの課題が残され、また、米国企業との特許接触問題もクリアになっていないことは周知の事実です。当社が開発した新型DNAチップ「Bio Strand Tip」は、既存のDNAチップの基礎概念を塗り替えるもので、立体構造（3次元）を利用したのです。すなわち、糸状の直線に数百から数千種類ものDNAをスポットし、それを円柱状のコアピンに巻きつけるというものです。

Bio Strand System



PSSが世界に発信する新技术・新製品

Bio Strand Tipの特徴・優位性

「Bio Strand Tip」の最大の特徴は、数百から数千種類のDNA断片をスポットした糸を巻きつけた円柱状のコアピンを、分注チップに封じ込め、チップごとDNAを検出する点にあります。これにより、従来のDNAチップでは困難であった、抽出から検出までの自動化が可能となるのです。

2002年の販売開始に向けた製品化が進展中

現在、米国に設立した子会社「Bio Strand, Inc.」(カリフォルニア州)でチップの製品化に向けた様々な取り組みを急ピッチで進めています。この方式のDNAチップは、従来DNAチップでは困難であった特許上の問題も回避できる可能性が高く、製造工程も簡素化されうることから、製造コストを低下させることもできるでしょう。また、当社の基幹技術「MAGTRATION® Technology」と「Bio Strand Tip」を組み合わせた全自動化装置は、これまで数十時間かかった抽出から検出までの作業を、30～40分に短縮することも夢ではありません。現在、DNAチップの市場規模は主に研究用途として125億円前後といわれています。「Bio Strand Tip」のように低コストで効率的なDNAチップの利用が研究分野だけでなく、医療分野に浸透すれば、2010年には数千億円規模の市場が誕生するものと当社は期待しています。

その他の新技术

蛍光バーコードビーズを用いた全自動解析システム
「MAGTRATION® Technology」を遺伝子解析に応用した技術です。磁性体粒子の表面に、蛍光標識したDNA断片を固定化し、蛍光検出することにより目的DNAの有無を判断するものです。数種類の蛍光色素を組み合わせ標識パターンを変えれば、数百種類ものDNA等を同時に検出することが可能となります。また、既に当社で製品化されているDNA自動抽出装置と組み合わせることにより、抽出から検出までの全自動解析装置を実現することもできます。

高速PCR

現在、遺伝子研究の分野で用いられている増幅手法の主流はPCR法と呼ばれるものです。当社が開発する高速PCRは、増幅効率の大幅な改善を実現するものです。

MagSNiPer (マグスナイパー)

今注目されているSNPs解析では、DNAの「抽出 増幅 検出」工程が必要不可欠とされていました。当社は、「増幅」を行うことなくSNPs解析を行おうという画期的なシステムにチャレンジしています。

用語解説

免疫

免疫とは、生体が自己と非自己を識別する中で、非自己を排除するために行う反応をいい、生物が生存していく中で「生体防御」の仕組みと捉えることができます。

化学発光

原子や分子が化学反応によって光を発する現象をいい、この光を検知することにより、反応に関与している原子や分子を定量できます。現在この方法は、生化学研究の様々な分野で活用されており、免疫やDNAの検出にも利用されています。

DNA

デオキシリボ核酸 (deoxyribonucleic acid) の略称で、タンパク質のアミノ酸配列を指定する暗号をいい、4種類の塩基 (アデニン・グアニン・シトシン・チミン) から構成されます。

遺伝子解析

生物の遺伝子情報は、遺伝子の塩基配列により決定づけられるとされています。現在、ヒトゲノムの塩基配列はほぼ解読されましたが、それぞれの機能についてはまだ解明されておらず、世界各国で懸念な遺伝子機能の解析が行われています。各遺伝子の機能が解明できれば、個人個人の体質にあった治療を行うテーラーメイド医療や予防医療を行うことができるため、人類への貢献が期待されています。

臨床検査

診療・治療の現場で行う検査をいいます。患者さんの身体について、病気の有無、あるとすればどこがどう悪いのかなど、血液や尿を様々な分析手段を駆使して調べます。医師は、この検査結果を参考に診療を進めます。

試薬

目的とする物質を化学的方法で検出する際に使う薬品をいいます。

ヒトゲノム

人の生命体の設計図ともいえる全遺伝情報を指します。

コンタミネーション

DNA抽出などの反応工程において、溶液の飛沫などにより、他のサンプルや溶液が混合してしまい、対象物質 (サンプル) が汚染されてしまうことをいいます。

DNAプローブ

DNAプローブとは、DNAの相補性を利用して、特定DNAを捕獲するために使う探り針をいいます。

プロテオーム解析

プロテオーム (Proteome) とは、Protein (タンパク質) と Genome (ゲノム) の合成語であり、プロテオーム解析とは、ゲノムの持つ情報とタンパク質機能とを対応づけて、タンパク質の構造・機能を解明しようとする研究をいいます。

分注チップ

MAGTRATION® Technologyによる自動化装置で用いるスポイト状のプラスチック製品をいいます。溶液の注入、吸引・吐出による目的DNAと溶液の懸濁や、目的DNAの移送を行います。

PCR

PCRとはPolymerase Chain Reactionの略で、DNA配列の特定部位を増幅させる手法として、最も広く普及しています。DNA鎖の特定部位のみを繰り返し複製する反応により、微量のDNAを100万倍にまで増幅することができます。これは同時に、不純物により反応が阻害されうることを意味するので、PCRを用いる場合には、目的DNAが高純度に抽出・精製されていることが重要となります。

SNPs解析

SNPとは一塩基多型をいい、一塩基配列の違いが、薬の効き方、特定の病気へのかかり易さなど、人間の体質に大きく影響することがわかっています。この特定塩基配列の違いを調べることをSNPs解析といい、各個人にあう最適な治療や予防医療を可能とします。

2001年2月28日、ナスダック・ジャパン市場に株式上場

2001年2月28日、株主の皆様方のご支援ご鞭撻のおかげをもちまして、プレジジョン・システム・サイエンス株式会社は、ナスダック・ジャパン市場にグロース基準にて新規上場を果たすことができました。上場に伴いまして、発行済株式総数8,374株、資本金862百万円となりました。

2001年4月16日、新社屋完成。営業/総務部門と研究開発部門を一体化することで業務運営の効率化を実現しました

旧本社 (東京都稲城市) と旧松戸研究所 (千葉県松戸市) を統合した新社屋 (千葉県松戸市) が2001年4月16日に完成しました。従来2拠点に分離していた営業/総務部門と研究開発部門が一体化されたことでより効率的な業務運営体制が確立されました。また、今回の新社屋完成に合わせて、ISO9001取得準備もスタート。ハード・ソフト両面から一層の充実を図ります。

世界市場へのアプローチ拠点として欧州・米国に現地法人を設立

欧州・米国におけるOEM/アライアンス先の開拓活動や大学/研究所への営業活動、また、製品展示会や学術交流会など販売促進や情報収集活動の拠点として、現地法人を3社設立しました。これら3拠点を足掛かりとして、欧米市場に対する積極的なアプローチを展開していきます。



PSS本社 (Japan)



PSS BiO Instruments, Inc. (USA)



Bio Strand, Inc. (USA)



Precision System Science Europe GmbH (Germany)

営業の概況

1. 営業の経過および成果

当期におけるわが国経済は、金融機関の不良債権の最終処理が未だなされていないことおよび企業の構造改革が現実になったことから景況に低迷感が強まっております。更に株価の下落、個人消費の低迷、米国経済の減速等の要素も加わり、わが国経済は非常に厳しい状況で推移してまいりました。

こうした状況の下、今後の発展が期待される遺伝子関連業界を概観すると、国内企業はゲノム構造解析の分野で欧米に遅れをとりましたが、SNP解析、プロテオーム解析、ゲノム創薬あるいは遺伝子による臨床検査等のポストゲノムの分野で巻き返しを図るべく活動が活発化してきた1年でありました。今後、それらの各分野において、世界規模の競争あるいはアライアンス等の事業展開がますます進められていくものと予想されます。

さて、当社におきましては、平成13年2月に大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場へ株式を上場し、世界市場への足がかりを得ることができました。また、従来からの懸案事項であった本社機能の分散化の問題につきましても、千葉県松戸市に新本社社屋を取得し、機能を集約したうえで会社運営の効率化を図っております。営業面では、前期に引き続きDNA自動抽出装置の販売拡大に注力するとともに、大学や経済産業省等の公的研究機関向けの自動化システムの受託開発に注力致しました。その結果、売上高は1,643百万円（前期比7.4%増）を計上致しました。

一方で、研究開発活動としては、様々なニーズに対応するべく、ハイスルーブットタイプ（大量処置）や大容量検体に対応した抽

出装置の開発など、DNA自動抽出装置の多機種化を進めております。また、数年後の事業展開を見据えて、抽出から解析に至るまでの一貫自動化装置の開発を視野に入れ、ビーズ型DNAチップである「蛍光バーコードビーズ」およびそれを利用した測定装置の開発に注力致しました。

これらの研究開発活動により開発費として203百万円（前期比48.0%増）を費用計上した他、大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場への上場に伴う費用や新社屋への移転費用などの要因が重なり、経常損失は287百万円、当期損失は292百万円と赤字計上となりました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

①DNA自動抽出装置

Roche Diagnostics GmbHをはじめとして各OEM製品が順調な出荷を見せたことから、今期の販売台数は241台（前期は142台）と大幅な増加となりました。しかしながら、今期は高額な大型機種の出荷が無く、大学や病院に付属する研究所向けの中小型機種が主体であったことから、販売単価の低下を招き、売上高695百万円（前期比0.5%増）と若干の増加に止まりました。

また、新たなOEM先として、平成12年10月にスウェーデンのMagnetic Biosolutions Sweden ABと契約を締結し、OEM契約先は5社となっております。

②その他理化学機器

遺伝子関連業界における設備投資が本格化してきております。今

期については、経済産業省の製品評価技術基盤機構向けゲノム解析システム自動化ラインのシステム開発受託や新エネルギー・産業技術総合開発機構から財団法人バイオ産業情報化コンソーシアムを通じた委託開発事業として徳島大学のゲノム機能研究センターおよび産業技術総合研究所との共同開発実施による開発売上等が大きく寄与し、売上高425百万円（前期比52.8%増）となりました。

③その他（製品）

自社加工のプラスチック消耗品および装置メンテナンスを中心に売上高205百万円（前期比18.4%減）となりました。臨床検査センター向けに販売していた消耗品の内、粗利率の低かった一部の製品の取扱いを平成13年1月から停止したことが影響し、売上高の減少を招きました。

④プラスチック消耗品（商品）

装置販売に伴い、それに付随するプラスチック消耗品の売上も増加しており、売上高316百万円（前期比3.1%増）となりました。

2. 会社が対処すべき課題

遺伝子関連業界において、現状、マーケットの中心は米国、欧州にあります。当社も海外OEM先を通じた輸出が先行する事業展開となっております。当社自身も海外での本格的な事業展開を推進する目的から、平成13年7月に米国およびドイツに100%子会社を設立致しました。今後、これらの子会社を通じて欧米での積極

的な顧客開拓を展開し、将来的には現地生産体制の構築も視野に入れて事業展開を行ってまいります。

また、当社はこれまで、事業規模に見合った小規模な体制で会社運営を行ってまいりましたが、今後の事業拡大に備えた人員の確保と管理体制を充実させていく必要があるものと考えており、その体制作りに取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

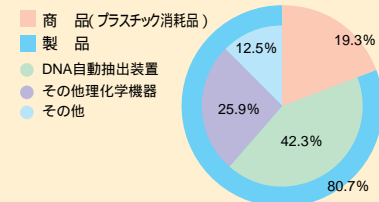
3. 設備投資の状況

当期中に実施致しました設備投資の総額は527百万円で、その主なものは新本社社屋購入に関するものであります。新本社には、研究開発および販売の拠点を集約することで、効率的な事務運営と迅速な意思決定を実現したいと考え、485百万円（建物213百万円、土地272百万円）の投資を実施致しました。なお、当期において、重要な設備の除却・売却はありません。

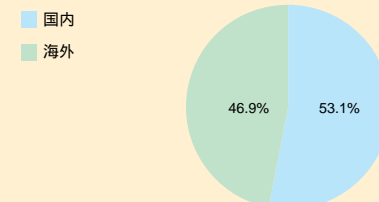
4. 資金調達の状況

当期の資金調達は、平成12年9月30日払込の株主割当増資による新株式の発行（3,687株）により3千円を、平成13年2月28日払込の一般公募による新株式の発行（1,000株）により1,610百万円を調達致しました。

製品別売上高



地域別売上高



	第12期 (平成9年6月期)	第13期 (平成10年6月期)	第14期 (平成11年6月期)	第15期 (平成12年6月期)	第16期 (平成13年6月期)
売上高(千円)	926,510	826,326	1,280,266	1,530,187	1,643,695
当期利益(千円)	7,664	170,193	27,603	136,388	292,067
1株当たり当期利益(円)	7,521.47	121,134.26	18,065.25	72,662.81	37,876.71
総資産(千円)	928,803	994,767	1,256,186	1,547,793	2,714,388
純資産(千円)	60,775	150,969	123,365	101,621	1,419,676
1株当たり純資産(円)	53,879.09	98,801.87	80,736.62	27,562.07	169,533.83

貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 平成13年6月30日現在	前期 平成12年6月30日現在
(資産の部)		
流動資産	1,744,385	1,071,820
現金及び預金	1,082,183	373,412
受取手形	48,686	15,762
売掛金	287,699	229,086
商品	12,376	9,230
製品	156,139	239,614
原材料	6,212	3,476
仕掛品	88,156	152,785
貯蔵品	3,113	2,319
前渡金	7,350	-
前払費用	13,325	3,273
繰延税金資産	-	2,188
未収還付消費税等	35,341	40,161
その他	3,892	606
貸倒引当金	92	97
固定資産	970,002	475,746
有形固定資産	923,339	432,132
建物	326,109	120,008
構築物	1,087	1,267
機械及び装置	56,218	67,147
車両運搬具	6,005	2,445
工具器具及び備品	36,471	16,345
土地	497,447	224,916
無形固定資産	1,152	1,248
ソフトウェア	241	338
その他	910	910
投資等	45,510	42,364
投資有価証券	25,826	25,821
出資	720	720
長期前払費用	152	439
その他	18,812	15,384
繰延資産	-	226
社債発行差金	-	226
資産合計	2,714,388	1,547,793

(単位：千円)

科目	当期 平成13年6月30日現在	前期 平成12年6月30日現在
(負債の部)		
流動負債	396,664	894,082
買掛金	161,339	227,088
短期借入金	66,000	379,826
一年以内返済予定の長期借入金	124,545	201,941
一年以内償還予定の新株引受権付社債	-	28,750
未払金	32,977	34,220
未払費用	428	1,215
未払法人税等	2,850	870
前受金	-	6,982
預り金	5,903	1,544
賞与引当金	2,020	11,644
その他	599	-
固定負債	898,048	552,089
新株引受権付社債	-	28,750
長期借入金	897,963	523,339
繰延税金負債	84	-
負債合計	1,294,712	1,446,172
(資本の部)		
資本金	862,003	309,500
法定準備金	1,328,025	270,525
資本準備金	1,328,025	270,525
欠損金	770,470	478,403
当期末処理損失	770,470	478,403
その他有価証券評価差額金	118	-
資本合計	1,419,676	101,621
負債・資本合計	2,714,388	1,547,793

損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 自平成12年7月1日 至平成13年6月30日	前期 自平成11年7月1日 至平成12年6月30日
売上高	1,643,695	1,530,187
売上原価	1,261,504	1,189,464
売上総利益	382,191	340,722
販売費及び一般管理費	621,374	444,656
営業損失	239,183	103,934
営業外収益	9,992	4,015
保険返戻金	6,886	-
受取利息	1,533	792
受取配当金	505	84
福利厚生積立金解約返戻金	-	2,914
その他	1,067	223
営業外費用	58,041	33,282
支払利息及び割引料	-	26,755
支払利息	32,681	-
新株発行費	20,137	-
社債利息	1,152	4,782
社債発行差金償却	825	344
社債発行費	250	-
貸倒損失	-	310
その他	2,995	1,090
経常損失	287,232	133,201
特別利益	202	-
貸倒引当金戻入益	4	-
賞与引当金戻入益	198	-
特別損失	-	4,504
投資有価証券評価損	-	4,504
税引前当期損失	287,029	137,706
法人税、住民税及び事業税	2,850	870
法人税等調整額	2,188	2,188
当期損失	292,067	136,388
前期繰越損失	478,403	342,015
当期末処理損失	770,470	478,403

損失処理

(単位：円)

科目	当期 自平成12年7月1日 至平成13年6月30日	前期 自平成11年7月1日 至平成12年6月30日
当期末処理損失	770,470,961	478,403,649
これを次のとおり処理いたしました。		
次期繰越損失	770,470,961	478,403,649

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期 自平成12年7月1日 至平成13年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	296,292
投資活動によるキャッシュ・フロー	520,231
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,535,905
現金及び現金同等物に係る換算差額	5
現金及び現金同等物の増加額	719,376
現金及び現金同等物の期首残高	295,081
現金及び現金同等物の期末残高	1,014,457

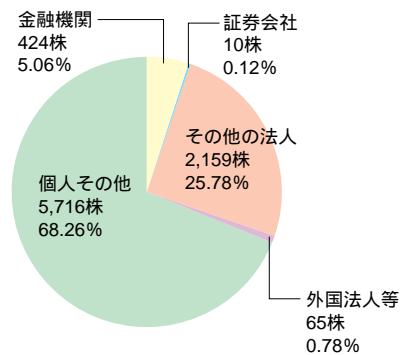
株式の状況 (平成13年6月30日現在)

会社が発行する株式の総数 14,312株
 発行済株式の総数 8,374株
 1.平成12年8月21日開催の取締役会決議により、当社額面50,000円株式を無額面株式に一齐転換しております。
 2.平成12年9月30日払込の株主割当による新株式の発行により、発行済株式の総数は3,687株増加し、7,374株になりました。
 3.平成13年2月28日払込の一般公募による新株式の発行により、発行済株式の総数は1,000株増加し、8,374株になりました。
 株主数 1,627名

大株主

株主名	持株数	持株比率
田島秀二 有限会社ユニテック	2,672株	31.90%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	750	8.95
投資事業組合 Y N E D	332	3.96
ジャフコ・ジェイエス-2号投資事業組合	320	3.82
ジャフコ・ジェイエス-2号投資事業組合	220	2.62
富士銀キャピタル株式会社	201	2.40
ジャフコ・アール2号投資事業組合	180	2.14
株式会社ジャフコ	102	1.21
プレジジョン・システム・サイエンス従業員持株会	71	0.84
細矢礼二	56	0.66

所有者別株式分布状況



会社概要 (平成13年9月13日現在)

商号 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
 (英文社名) Precision System Science Co., Ltd.
 設立年月日 1985年7月17日
 役員
 代表取締役社長 田島秀二
 常務取締役 小幡公道
 常務取締役 高橋達雄
 取締役 高橋正明
 取締役 長岡信夫
 取締役 中島保泉
 取締役 秋本淳
 監査役 松野卓也
 監査役 寛悦生
 監査役 鈴木啓靖

資本金 862百万円
 従業員数 48名
 海外現地法人 PSS BiO Instruments, Inc. (USA)
 Bio Strand, Inc. (USA)
 Precision System Science Europe GmbH (Germany)

- 事業内容
- DNA自動抽出装置
DNA自動抽出装置の開発および販売は当社の主力事業であります。当社の特許技術を利用して製品化したオリジナル製品であり、平成8年8月より本格販売を開始しております。
 - その他理化学機器
遺伝子関連業界の特注システムの受託開発を行っております。
 - その他(製品)
DNA自動抽出装置および分注装置等の臨床検査装置を使用する為の、使い捨てタイプのプラスチック成型品やプラスチック消耗品を、当社で加工し販売しております。
 - プラスチック消耗品(商品)
DNA自動抽出装置および分注装置等の臨床検査装置を使用する為の、使い捨てタイプのプラスチック成型品やプラスチック消耗品を、他社から購入し販売しております。

アンケートにご協力ください

株主様との一層のコミュニケーションの充実を図るため、是非、右記のアンケートにご協力ください。

株主の皆様へアンケートのお願い

Q1:どこで当社をお知りになりましたか？

証券会社 新聞・雑誌 ホームページ
 知人の紹介
 その他()

Q2:当社について興味を持っていただいた内容は何でしょうか？

事業内容(技術・製品など) 市場成長性
 株価 経営方針・理念
 その他()

Q3:当社のどのような内容についてお知りになりたいですか？

技術・製品 経営方針・理念 事業戦略
 株価対策 その他

Q4:当社の株式を購入なさった理由は何でしょうか？

将来性・成長性 技術力 経営方針・理念
 事業内容 株価の割安感 証券会社に勧められて
 その他()

Q5:事業報告書の内容は理解しやすいものでしたか？

充分理解できた ほぼ理解できた あまり理解できなかった
 理由()

Q6:情報入手手段として、どのようなものを希望されますか？

ホームページ Email 投資家説明会
 IR広告
 その他()

Q7:上記のほか、当社へのご要望がございましたら、ご記入ください。